ぼくはまだ7さい

(原文は英語)

シドール・ヤロスラフ (7歳)

ウクライナ

ぼくはまだ7さいです。まだほんの子どもです。ぼくは学校に行っています。友だちもいます。お気に入りのおもちゃもあります。大すきなお母さんとお父さんもいます。音楽の中でもロックミュージックが大すきです。ゆめはゆう名な“Queen”のような、自分のロックバンドをつくることです。そしてギターもなっています。ぼくのお母さんとお父さんがぼくのぜんぶのパフォーマンスに、いっしょにいてくれるのがゆめです。あなたが7さいの時に、人生の中でむずかしいことがあるなんて思えますか？ でも、ぼくの国にはせんそうがやってきたのです。

ある日の朝、ぼくはサイレンの音で目がさめました。とてもこわかったです。道はとてもこんでいました。多くのお店で、たなは空っぽになりました。その後、シェルターの中で長くつめたい夜をすごす毎日が始まりました。あなたが7さいの時に、人生の中でむずかしいことがあるなんて思えますか？ でも、ぼくはこの7さいというときに、ロケットがとんできて、たてものに当たってぼくはつするのを見ました。7さいにして、せんそうとはどのようなものか知っています。そのため、平和がどれだけ大切なことかをぼくは知っています。平和へのねがいは今、あらゆるイベントにおいて中心をなすことになっています。ケーキのろうそくをけして、みんながねがうのはただ一つ、平和です。なぜなら、ロケットが家に当たってすべてをこわしてしまったら、どれだけたくさんのおもちゃをもらってもいみがないからです。子どもベヤがこわれたり、おもちゃがあちらこちらにちらばったりしてしまうのです。

平和とはしあわせなみ来です。ぼくたちはまだ子どもですが、本当に平和をねがっています。平和なみ来、家ぞくみんなで外国にりよ行に行けるみ来、きょうふのないみ来。人々が自ぜんと友だちになるみ来。人々がおたがにたすけ合うみ来をねがっています。

ぼくはまだ子どもです。たった7さいです。ほうりつを作ることも、平和をきずくためにやく立つ大切なけつていをするすることもできません。でも、子どもとして、地きゅう上に平和をきずくことにさんかできます。ぼくは自ぜんをまもります。人間と生きものの間の平和を大切にします。こん虫をまもります。そして、このとり組みにさんかするようみなさんによびかけます。テントウムシが道をはっているのを見たら？ ひろい上げて草の上においてあげましょう。コガネムシがひっくりかえって、どうすることもできず足をうごかしているのを見たら？ おこしてあげましょう。小さなとり組みがせかいをよくしていきます。ぼくはかんきょうをよごしません。なぜなら、地きゅうはぼくたちみんなの

家だからです。ぼくは人間と地きゅうの間の平和を大切にします。

ぼくはまだ子どもです。でも、ぼくは平和につつまれたいと思っています。ぼくはクラスメートとなかよくしています。教しつの中の平和は学校を平和にし、学校の平和はぼくの近じょを平和にし、そしてじゅん番に町、そして国ぜん体を平和にすると思います。ぼくは、あいが平和の土台だと思います。やはり、あいが欠けているだけで、ねたみやみがってさ、いかり、にくしみが生まれます。ぼくは自分たちの人生をあいするようせかい中によびかけます。それは、たったひとつの人生、1回だけの人生だからです。自らをまもることができない人々の人生をまもるために、ぼくは、こん虫のいのちをまもり、ぼくのお母さんとお父さんはぼくのいのちをまもり、ぼくのお母さんとお父さんのいのちはおじいさんとおばあさんにまもられています。ぼくたちのいのちはかみさまにまもられています。かみさまがまもってくれるおかげで、きれいなチョウチョウのように平和はぼくの国ウクライナにとんできると思います。

ぼくたちは子どもです。平和はもうすぐぼくの国だけでなく、せかい中にやってくるとぼくたちは思います。なぜなら、ぼくはまだ7さいですが、大りくと海がいくつあるのかを知っていて、水とくすりがない人たちがどの大りくにすんでいるのかを知っています。だから、平和がせかい中の人びとにおとずれることをぼくはゆめ見えています。なぜなら、すべての人が、平和につつまれるかちがあるからです。平和とは、せんそうがないこと。平和とは、ふんそうがないこと。平和とは、食べものや水が十分にあるせかい。平和とは、きれいな海と川のようなせかい。平和とは、どうぶつをつかったサーカスやどうぶつえんにおりがないようなせかい。

みんなに平和がひつようです。